

日本医学英語教育学会

医学教育のグローバルスタンダードに対応するための
医学英語教育ガイドライン
(最終版)

日本医学英語教育学会 ガイドライン委員会

委員長： 福沢 嘉孝 (愛知医科大学病院 先制・統合医療包括センター)

副委員長： 一杉 正仁 (滋賀医科大学 社会医学講座)

委員： 石井 誠一 (東北大学大学院医学系研究科 医学教育推進センター)

(五十音順) 亀岡 淳一 (東北大学大学院医学系研究科 医学教育推進センター)

建部 一夫 (順天堂大学医学部 医学教育研究室)

高田 淳 (高知大学医学部 医学教育創造・推進室)

服部 しのぶ (藤田保健衛生大学医療科学部 臨床工学科)

廣川 慎一郎 (富山大学大学院医学薬学研究部 医学教育学)

森 茂 (大分大学医学部 応用言語学)

守屋 利佳 (北里大学医学部 医学教育研究開発センター)

Raoul Breugelmans (東京医科大学 医学教育学分野)

顧問： 吉岡 俊正 (東京女子医科大学)

前 文

近年、社会においてはグローバル化が求められているが、それは医学の領域でも例外ではない。現状の教育では、教員は医学用語を日本語だけで指導しがちであり、また医学生は英語版の教科書を見ることもなく学習することが少なくない。¹ その結果として英語力は伸び悩み、我が国は他国に比べ、TOEFL-iBT²やIELTS³の成績も低いという現状を導いている。これでは、医学英語の運用能力にも支障をきたすことになる。

医学に関する英語は多くの医科大学で教育されているが、その教育内容や到達度の目標設定は統一されていない。したがって、十分な教育を受けていない人は、医療現場や医学研究の現場で、十分に医学英語を活用できないことがある。そこで、日本医学英語教育学会（JASMEE）では、英語が母語ではない日本の医学生の、医学・医療の現場における、読み・書き・聴き・話すという医学英語能力の向上を目標に、日本における医学英語教育のガイドラインを提案する。

本ガイドラインの作成にあたっては、2013年に日本医学教育学会から提示された『医学教育分野別評価基準日本版（世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード2012年版準拠）』^{4,5}を参考とし、医学教育の国際的基準に合致するために必要な英語運用能力の習得を主眼とした。

この評価基準を参考に、本ガイドラインでは「英語で教科書・論文を読み、理解できる」「患者に英語で面接し診察できる」「学会等において英語で発表討論できる」ということをoutcomeとする。その達成のために教員は普段から医学英語を講義で使うように心がけることが望まれ、学生は英語ではどう表現するのかを考えながら学習することが望まれる。

本ガイドラインは、医学英語学習における必要最低限の目標を示しているに過ぎず、各教育機関における個々の取り組みを規制するものではない。すでに多数の医科大学・医学部で独自の取り組みがなされていることを踏まえ、さらなる発展を奨励するものである。また、今後の医学英語教育の発展により本ガイドライン自体が改訂・改良されることが望ましいと考えている。

本ガイドラインにより医学英語教育が発展し、わが国の医学・医療が国際的に評価されることを願ってやまない。

2015年1月

日本医学英語教育学会
理事長 伊達 勲
ガイドライン委員会

福沢嘉孝，一杉正仁，石井誠一，亀岡淳一，建部一夫，高田 淳，服部しのぶ，
廣川慎一郎，森 茂，守屋利佳，Raoul Breugelmans，吉岡俊正

注 *TOEFL-iBTスコアに関する報告は<https://www.ets.org/>で参照可能

*IELTSスコアに関する報告は<http://www.ielts.org/>で参照可能

【本ガイドラインの構成】

本ガイドラインにおいては、英語運用能力 (proficiency) を下記の4項目に分類している。

(1) Vocabulary

(2) Reading

(3) Writing

(4) Communication

学習のoutcomeとして、医学部卒業時に全員が習得すべき内容をMinimum requirement、全員が習得する必要はないが、さらなる能力向上のために習得が望ましい内容をAdvanced requirementと定義した。そして前記の4運用能力それぞれに対して、学習目標を大別して具体的に示した。

【本ガイドラインと医学教育分野別評価基準との対応】

「医学教育分野別評価基準」は直截的に医学英語教育に関わるものではないが、その内容として医学英語の運用能力が求められるものが少なくない。具体的には下記の各項目が挙げられる。本ガイドラインでは、これらの目標に到達できるために必要な能力の習得を目安としている。

医学教育分野別評価基準の記載項目	必要となる医学英語運用能力
国際保健 (Q 1.1.2) : 国際的な健康障害の認識、不平等や不正による健康への影響などの認識を含む)	・ 医学文献の reading 能力 ・ 臨床における communication 能力
生涯学習 (B1.1.6) : 評価、審査、自己報告、または認定された継続専門職教育 (continuing professional development : CPD) / 医学生涯教育 (continuing medical education : CME) などの活動を通して、知識と技能を最新の状態で維持する職業上の責務	・ 生涯学習を行う上での情報収集のための英文資料の reading 能力
社会的責任 (B 1.1.7) : 地域あるいは国際的な医学の発展に貢献する意思と能力を含む。	・ 医学文献の reading ・ writing 能力 ・ 臨床や研究における communication 能力
EBM (科学的根拠に基づく医学) (B 2.2.3)	・ 医学文献等、種々の情報・資料の reading 能力
他教育機関との国内・国際的な協力 (B 6.6.1) : 適切な資源を提供することによって、教員と学生の国内・国際的な教職員と学生の交流を促進すべきである (Q 6.6.1)	・ 専門家どうしの communication 能力
全体的な学習成果 (Q 7.1.3) : 医師国家試験の成績、ベンチマークの評価、国際的試験、職業選択、大学卒業後の業績などから測られる。	・ 試験に対応する reading ・ writing 能力

(1) Vocabulary

1. Minimum requirement

- ・ 身体の部位と機能、医療・健康に関する基本的な専門用語*を理解し使うことができる。
- ・ 医学英単語を使い、必要な情報を英語テキストや web 上で検索できる。

[具体的な目安]

〈基本的な英単語（一般用語と専門用語語彙）〉

- ・ 「身体の部位と機能」、「症状、徴候」、「検査、診療行為、診療器具」、「疾患、診断」に関する基本的な専門用語*を理解し使うことができる。

注) 基本的な専門用語*: 医師国家試験出題基準に記載されている医学用語に相当する英語表記。

〈英語表現〉

- ・ 「医療面接」、「身体診察」、「患者への病状説明や指示・指導」「医療情報（カルテ、電子カルテ）記載」、「症例プレゼンテーション」で必要な基本的な英語表現を使うことができる。
- ・ 医学・医療の研究に必要な英単語、英語表現の情報を英語テキストや web 上で検索できる。

2. Advanced requirement

- ・ 医療・健康に必要な英単語、英語表現を十分に理解できる。
- ・ 医学・医療の研究に必要な英単語、英語表現の情報を十分に利用できる。

[具体的な目安]

〈医学英語用語〉

- ・ 臨床研修、診療実践のための医学用語を理解し、英語で医療に従事できる。
- ・ 一般用語と専門用語の語彙を理解し使い分けながら、患者に説明できる。
- ・ 医学英単語を駆使し、その意味も解説しながら臨床参加型実習の指導ができる。
- ・ 医学英単語を駆使し、論文執筆や学会発表・討論ができる。
- ・ 医学英単語を駆使し、その意味も解説しながら講義やディスカッションができる。

〈医学英語表現〉

- ・ 頻繁に辞書を引くことなく、英語の成書や論文を自由に使い、学習することができる。

(2) Reading

1. Minimum requirement

- ・医療・健康に必要な基本的な医学英語が理解できる。
- ・医学・医療の研究の基礎に必要な医学英語が理解できる。

[具体的な目安]

〈診療〉

- ・基本的な身体機能及び疾患の英語表記を理解できる。
- ・基本的な症状、徴候の英語表記を理解できる。
- ・基本的な診察所見、診療行為、診療器具の英語表記を理解できる。
- ・基本疾患(モデル・コア・カリキュラムに記載されている)について英語の資料を読み、内容を理解できる。

〈研究〉

- ・英語の文献検索を行い、目的とする英語論文の abstract を読んで理解できる。
- ・医学英語論文の基本的な構造を理解できる (abstract, introduction, methods, results, discussion, references)。

2. Advanced requirement

- ・医療・健康に必要な医学英語を十分に理解できる。
- ・医学・医療の研究に必要な医学英語資料を十分に理解できる。

[具体的な目安]

〈医療・健康〉

- ・患者の症候や病態をもとに、英語の資料を利用して問題点を解決できる。

〈研究〉

- ・英文の症例報告の内容がおおむね理解できる。
- ・最新の医学的知識を英文で理解できる。すなわち、診療や研究に関する英語資料の内容がおおむね理解できる。

(3) Writing

1. Minimum requirement

- ・テクニカル・ライティングができる。
- ・医学・医療関連のインフォーマルなコミュニケーション英文が書ける。
- ・医学論文の英文 abstract を書ける。

[具体的な目安]

〈テクニカル・ライティング〉

- ・テクニカル・ライティングの存在を知っている。
 - ・伝えたい内容を的確にまとめる特殊技術（レトリック）である点
 - ・文法・語彙が正しいだけでは不十分である点
 - ・日本語でのライティングにも共通の技術である点
- ・パラグラフ・ライティングができる。
 - ・各パラグラフに一つだけ論点／主張を置く。その論点を述べる文を **topic sentence** といい、通常パラグラフの冒頭（または最後）におく。残りの部分は、その論点を補強・拡充するための論証や例示にあてる。
- ・一貫性（**coherence**）の保たれた文章を書ける。
 - ・文単位で
 - ・パラグラフ単位で
- ・明確（**clear**）かつ簡潔（**concise**）な文章を書ける。
- ・推敲（**self-editing**）ができる。

〈一般のコミュニケーション英文〉

- ・基本的な文法（**punctuation** を含む）を知っている。
- ・基本的な語彙（医学用語を含む）を知っている。
- ・応用的な文法・語彙を調べながら運用できる。
 - ・辞書・参考書・インターネット（Google フレーズ検索・ワイルドカード検索、コーパス等）等を用いて検索できる。
- ・インフォーマル文書（**e-mail, etc.**）を書ける。

〈医学英語論文（およびそれに準じたレポート）〉

- ・医学論文に必要な要素を理解している。
 - ・新規性（**novelty**）と重要性（**importance**）の2大要素。
 - ・他の論文を参考にして良いが、倫理的に問題（剽窃 **plagiarism**、捏造 **fabrication** など）がないこと。
- ・英文 **abstract** を自分で書ける。
 - ・モデルとなりうる英文 **abstract** を検索できる。
 - ・英文 **abstract** の構造（**introduction, body, conclusion**）に従って書ける。

2. Advanced requirement

- ・ 医学・医療関連のフォーマルなコミュニケーション英文が書ける。
- ・ 医学英語論文を書ける。

[具体的な目安]

〈医学・医療を含む一般のコミュニケーション英文〉

- ・ 各種フォーマル文書 (curriculum vitae, cover letter, reference letter, etc.) のフォーマットを検索して、それに基づいた文書を書ける。

〈医学・医療の英語論文 (およびそれに準じたレポート) 〉

- ・ 英語論文を指導のもとに書ける。
 - ・ モデルとなりうる英語論文を検索できる。
 - ・ 英語論文の構造 (introduction, methods, results, discussion, references) に従って書ける。

(4) Communication

1. Minimum requirement

- ・ 英語で患者を案内することや良好な関係を築くことができ、基本的な医療面接を行える。
- ・ 英語で医学・医療の研究成果の簡単な発表と質疑応答ができる。

注 Minimum requirement は「国内における外国人患者への対応」を前提とする。

[具体的な目安]

〈診療〉

- ・ 聴解力
 - ・ 一般的な身体表現、症状を聴き取り、理解できる。
 - ・ 専門用語を使用した医療従事者間の会話を聴き取り、理解できる。
- ・ 発話力
 - ・ 初診患者の受付や院内誘導などの案内ができる。
 - ・ 挨拶・患者確認、ならびに基本的な医療面接を行える。
 - ・ 患者の診察上必要な説明（体位の変換、指示など）を行える。

〈研究〉

- ・ 聴解力
 - ・ （英語を母語としない人たちを対象とした）国際学会発表などのプレゼンテーションの内容をおおむね理解できる。
 - ・ （英語を母語としない人たちを対象とした）グループディスカッションでの議論の内容をおおむね理解できる。
 - ・ 医学・医療関連の英語メディアの情報を聴き取りおおむね理解できる。
- ・ 発話力
 - ・ 簡単なプレゼンテーションができる。
 - ・ グループディスカッションで自分の意見を簡単に述べることができる。
 - ・ 簡単な質問に答えることができる。

2. Advanced requirement

- ・ 英語で診察結果などを患者に説明し、上級医に報告できる。
- ・ 英語で医学・医療の研究成果の発表・討論、並びにネットワーク形成ができる。

注 Advanced requirement は「国外での医療活動」を前提とする。

[具体的な目安]

〈診療〉

・ 聴解力

- ・ 患者の社会的背景、信条などを聴き取り、理解できる。
- ・ 電話での会話、子供の発音、異なる母語の話者の発音などを聴き取り、理解できる。

・ 発話力

- ・ 患者に基本的な診察結果・治療方針などをわかりやすく説明できる。
- ・ 患者の状態を上級医に報告し、病態についてディスカッションすることができる。
- ・ 症例プレゼンテーションとそれに伴う質疑応答ができる。

〈研究〉

・ 聴解力

- ・ 国際学会発表などのプレゼンテーションの内容をおおむね理解できる。
- ・ 医学・医療関連の英語メディアの情報を聴き取り活用できる。
- ・ グループディスカッションでの議論の内容を理解できる。

・ 発話力

- ・ 学会・研究会で発表ができる。
- ・ 他の発表に対して質問ができる。
- ・ グループディスカッションで議論に沿って発言し、説明できる。
- ・ 学会・研究会参加者と懇談やネットワーク形成ができる。

参考教材

[Vocabulary]

一般用語

- ・ 奥 裕美, 朝澤恭子: 病院で使える イラスト英単語. メジカルビュー社, 2013.
- ・ 藤枝宏壽, 玉巻欣子, Randolph Mann: これだけは知っておきたい医学英語の基本用語と表現 第3版. メジカルビュー社, 2013.

専門用語

- ・ 高橋 玲, 松中みどり: トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語. アルク, 2007.
- ・ 日本医学英語教育学会 (編): 日本医学英語検定試験 3・4 級教本 第3版. メジカルビュー社, 2015.
- ・ 「医師国家試験出題基準」必須の基本的事項 (大項目 18 一般教養的事項、中項目 C 診療に必要な一般的な医学英語)
- ・ その他、モデル・コア・カリキュラムに記載されている主要 36 症候・病態や索引に書かれている語彙

[Reading]

- ・ 名木田恵理子, 助川尚子, David Waterbury: 医学英語読解 15 のポイント. メジカルビュー社, 2000.
- ・ 大井静雄 (編): すぐに役立つ! 医学論文読み方のコツ. メジカルビュー社, 2010.

[Writing]

- ・ Nell L. Kennedy (著), 菱田治子 (訳): アクセプトされる英語医学論文を書こう!. メジカルビュー社, 2001.
- ・ 篠塚 規: 実例による英文診断書・医療書類の書き方 改訂2版. メジカルビュー社, 2011.
- ・ 伊達 勲: 正しく効果的に伝える医師のための英文 E メール の書き方. メジカルビュー社, 2014.
- ・ Michael & Ingrid Friedbichler: 医学英語活用辞典. メジカルビュー社, 2012.

[Communication]

- ・ 植村研一, 大井静雄, Paul Hollister: 今日から役立つ! 医師のための英会話フレーズ 500 外来診療編. メジカルビュー社, 2007.
- ・ 大井静雄, 植村研一, Paul Hollister: 今日から役立つ! 医師のための英会話フレーズ 500 学会発表編. メジカルビュー社, 2007.
- ・ 一杉正仁, 安藤千春, 五十嵐裕章: 外国人患者さんが来ても困らない! 英語で伝える病気のあらまし. メジカルビュー社, 2013.
- ・ 佐地 勉 (編): 診療現場のリアル英会話. メジカルビュー社, 2012.
- ・ マリア・ジョルフィ: 医師のための診療英会話. メジカルビュー社, 2002.
- ・ 伊達 勲: もうプレゼンで困らない! 和英で引ける医学英語フレーズ辞典. メジカルビュー社, 2013.
- ・ C・S・ラングハム: 国際学会 English — 挨拶・口演・発表・質問・座長進行. 医歯薬出版, 2007.

[Textbook]

- ・ 日本医学英語教育学会 (編): 講義録 医学英語 I, II, III. メジカルビュー社, 2005~06.

[Websites]

- **UpToDate** (Wolters Kluwer) 〈<http://www.uptodate.com/ja/home>〉
- **DynaMed** (EBSCO Publishing) 〈<http://www.ebsco.co.jp/medical/dynamed/>〉
- **医中誌 Web** (医学中央雑誌刊行会) 〈<http://login.jamas.or.jp/>〉
- **Ovid** (Wolters Kluwer) 〈<http://www.ovid.jp/site/index.html>〉
- **Best Practice** (BMJ Publishing Group) 〈<http://clinicalevidence.bmj.com/x/index.html>〉
- **STAT!Ref** (Teton Data Systems) 〈<http://www.statref.com/>〉
- **Henry Stewart Talks** (Henry Stewart Talks Ltd.) 〈<http://hstalks.com/>〉
- **プロシージャーズコンサルト・日本版** (エルゼビア・ジャパン) 〈<http://proceduresconsult.jp/>〉
- **クリニカル・キー** (エルゼビア・ジャパン) 〈<http://www.clinicalkey.jp/>〉
- **今日の臨床サポート** (エルゼビア・ジャパン) 〈<http://clinicalsup.jp/>〉

参考文献

- 1) Uemura K: Medical English Education in Japan: Past, Present & Future. *J Med Engl Educ* 8(1):12-16, 2009.
- 2) Test of English as a Foreign Language (TOEFL): TOEFL® Research Program
<<http://www.ets.org/toefl/research/>>
- 3) International English Language Testing System (IELTS): Researchers – Test taker performance 2013 <http://www.ielts.org/researchers/analysis_of_test_data/test_taker_performance_2013.aspx>
- 4) 日本医学教育学会：世界医学教育連盟（WFME）グローバルスタンダード準拠医学教育分野別評価基準 日本版 <http://jsme.umin.ac.jp/ann/jmse_an_130730_WFME.html>
- 5) World Federation for Medical Education: Quality Improvement in Basic Medical Education
<<http://wfme.org/standards/bme>>